

令和4年度 真庭市立河内小学校 学校評価(自己・学校関係者)評価書

学校長 山田 史子 学校関係者評価委員 福岡 康晴 妹尾 久義 石堂 陽子 海原 明 松尾 奈月 横山 智江	松岡 祥和 三村 登 妹尾 宗夫 三谷 温美 青木 千恵 小椋 早織
--	---

【自己評価総合所見】
 本校の児童は、明るく素直で何事にも一生懸命取り組み、落ち着いた学習態度や生活態度が定着している。また、どの学年も、協力しながら、落ち着いた学習や行事に取り組むことができている。課題のある児童もいるが、少人数の良さを生かして、教職員が丁寧に指導することができている。保護者アンケートでは、高い肯定的評価を多くの項目でいただいている。教職員が誠実に学校教育目標の実現に向けて取り組んでいる成果でもあり、そのことが保護者にも伝わっている結果である。
 学習指導要領の趣旨を踏まえ、新しい学力観にせまる教育課程になるように、校内研修や他校への視察を通して実践力につなげている。今年度の授業改善では、「主体的・対話的で深い学び」について研究し、授業で話し合う場面を設定することで、協働的な学びが進む授業づくりを行った。ICTを活用した授業づくりの研修も行い、環境整備を進めながら、効果的な指導を研究している。また、「社会に開かれた教育課程」のためのコミュニティ・スクールと地域学校協働活動の一体的な推進に取り組むことで、今後も継続できる特別活動や総合的な学習の時間のカリキュラムを考えている。
 様々な課題を抱えているが、働き方改革の推進も意識しながら取り組みを進めていきたい。

評価領域	自己評価				学校関係者評価	
	評価項目	評価指標	評価基準	評価(自己)	結果の分析及び改善方策等	自己評価に対する意見等
自ら学び考える児童の育成 +A15:120	学力の定着	①学力定着状況確認テスト(11月)の平均正答率が全国値を上回る場合 ②職員アンケート(7月・12月)学校目標「自ら学び考える児童の育成」の項目の「主体的・対話的で深い学び」のある授業作り	④ 80%以上 ③ 60%以上 ② 40%以上 ① 40%未満	3	①達成率 60.0% (6教科中4教科達成) ・4年国語 62.5% (全国63.3%) ・4年算数 71.4% (全国75.5%) ・5年国語 47.0% (全国62.6%) ・5年算数 46.4% (全国60.3%) ・6年国語 61.5% (全国58.8%) ・6年算数 71.7% (全国66.0%) ②職員アンケート(7月・12月)7月から12月のアンケート結果では、目標値をおおむねクリアしている。学校目標の項目について教職員の意識も高まってきた。学力テストの分析を行い、課題のあるところを洗い出し、朝学習などでのEライブラリーの活用や、たしかめプリントなど児童が自らの学習を調整することができた。今後も、継続する。	B 授業参観等を通して、全体的に落ち着いた学習に取り組んでいる様子が伝わってくる。 学力に関しては、1人1人の学習状況を把握しながら、きめ細かな指導を期待する。 学校の学びは楽しいものであってほしい。学校が進めている子供同士が対話を通して学び合うような指導が、学びの楽しさを実感できるものになると良いと思う。 自律的な学習として自主学習に取り組んでいるが、子供の頑張りを表彰することで意欲は高まっていると思う。
	主体的で対話的で深い学び	①児童アンケート(7月・12月) ・自分の考えが伝わるように、発表をする。 ・学校や家庭で読書をする。 ②職員アンケート(12月) ・自分の考えが伝わるように、発表をする。	④ 80%以上 ③ 60%以上 ② 40%以上 ① 40%未満	4	①児童アンケートの結果より ・「自分の考えが伝わるように、発表をする」 肯定的群83% 授業で、自分の考えが伝わるように、発表をすることに課題がみられるので、引き続き協働的な学習を進めながら、対話によって学びが深まるような授業展開を工夫改善するとともに、児童の意欲の向上を図りたい。 ・「学校や家庭で読書をする」 肯定群76%→82% 委員会の取り組みの効果が、読書意欲の向上がみられた。 ②教職員アンケートの結果 児童アンケートの結果との差がある項目は、「発表や話し合い」の項目にあった。教師と児童の意識の差がある項目については、授業改善を図りながら進める必要がある。	
	学習習慣の確立	①児童アンケート(7月・12月) ・各学年の目安の時間で宿題や自主学習をしている。 ②タブレットの活用 ・授業でICT(タブレット等)を使って学習している。	④ 80%以上 ③ 60%以上 ② 40%以上 ① 40%未満	4	①児童アンケートの結果より 家庭学習(宿題や自主学習)をしている。学年プラス10分(88%)宿題だけでなく自主学習などで発展的な学習を進んでできるように、取組をしていきたい。 ②タブレットの活用について 「コグトレやコラボノート」などのアプリが新たに加わることで、授業での活用や、子どもたちの意欲も増してきた。 (85%→95%)	
思いやりのある児童の育成	心の教育の充実	①人権教育の取り組み ・いじめを考える集会、人権を考える取り組み ②児童アンケート(7月・12月) ・道徳の授業では、グループ全体で話し合っ、自分の考えを深めている。 ・人が困っている時は、進んで助けるなど、人の役にたつ良い行いをしている。	④ 80%以上 ③ 60%以上 ② 40%以上 ① 40%未満	4	①6月に『いじめを考える集会』を行い、学年のスローガンを発表した。みんなで人権の木を作成し掲示をしたので、他学年からも認められる機会にもなった。 ②児童アンケート ・道徳の授業での対話 肯定群 92→91% ペア学習での意見交換、全体の場での話し合いにより、自分と同じ考えや別の考え方があることを交流でき、他者理解にもつながった。 ・人の役にたつ良い行い 肯定群 93→91% 縦割り班活動等の異年齢交流を意図的、継続的に行うことで、関係づくりができていたため、お互いを気にかける気持ちも育っている。定期的なアンケート調査を行い教育相談を実施している。	A 縦割り掃除や縦割り活動 また、普段の遊びを通して、異学年の子供たちが積極的に関わり合っている。 大人が子供にしっかりと声をかけて関心を持っていることを伝えることも大切なことである。地域でも、しっかりとあいさつで声をかけ、子供たちの表情の変化にも目を向けていきたい。
	集団づくり	①よりよい学校生活と友だちづくりのためのアンケートQ-U(6月・10月)から学級満足度尺度のまとめ「満足群」「非承認群」「侵害認知群」「不満足群」の結果より ②児童アンケート(7月・12月) ・他学年とよく交流している。<縦割り班活動の効果>	④ 80%以上 ③ 60%以上 ② 40%以上 ① 40%未満	4	①学級満足度尺度 満足群69.23%→82.05% 非承認群15.38%→10.26% 侵害認知群10.26%→5.13% 不満足群5.13%→2.56% ・承認感が得られるように、人のいいところを見つける取り組み等を行うなど、関係づくりになる取り組みを行った。 ・ルールを守り、安心できる教室になるように取り組んだ。 ・行事等で学級集団の達成感につながり、満足度も上がった。 ② 肯定群 87%→94% 機会をとらえて異年齢交流の機会を持つことで、児童の関係性が育っている。今年度は、運動週間でも交流を計画的に行うことができた。	
	教師の指導	①児童アンケート・教職員アンケート(7月・12月) ・先生は、よいことをしたり、頑張ったことをしたらほめてくれる。 ・先生は、悪いことや間違っことをしたとき、叱ってくれる。	④ 80%以上 ③ 60%以上 ② 40%以上 ① 40%未満	4	①児童アンケート(肯定群) ほめる 96%→94% 叱る 96%→100% 教職員の結果は、7月、10月共に100%肯定的な回答 ・児童が認めてもらいたいと思う気持ちを大切にしながら丁寧に関わらなければならない。集団の規律を守りながら、居心地の良い学校になるように適切な指導を行う。	
たくましい児童の育成	体力の向上	①全国体力・運動習慣等調査(7月)「運動が好き」児童肯定群の割合 ②児童アンケート(11月)「体育の授業や遊びを通してすくすく体を動かしている」肯定群の割合	④ 80%以上 ③ 60%以上 ② 40%以上 ① 40%未満	4	①全国体力・運動習慣等調査 ・「運動が好き」 児童肯定群92% ②児童アンケート 肯定群88%→92% 児童の運動週間の定着を図る取り組みとして、岡山県運動習慣カードを委員会活動が中心となって運動習慣作りをおこなった。設定した運動習慣月間中は本校児童の61.4%の児童が岡山県運動週間カードに基づく一定の運動機会を活用していた。 ③教職員アンケート 肯定群100% 岡山県運動習慣カードの取り組みや体育の年間指導計画に沿って指導が進められている。マイベストチャレンジの取り組みを上手く活用できればと考えている。	A 運動が苦手な子供たちも意欲的に取り組むことができるように工夫がなされている。 家庭での生活に対しての学校とPTAが連携した取組ができている。各家庭の状況もあり、目標には達していないが、今後も継続して取り組んでもらいたい。特にメディアコントロールについて、家庭への啓発が必要になっている。
	コミュニケーション力、自己有用感	①児童アンケート(7月・12月)「難しいことでも、失敗を恐れなくて挑戦している」 ②児童アンケート(7月・12月)「自分から進んで挨拶をしている」 ③児童アンケート(7月・12月)「自分には、よいところがある」	④ 80%以上 ③ 60%以上 ② 40%以上 ① 40%未満	4	①児童アンケート 肯定群93%→92% 話し合い活動やICT機器を活用し、互いに高め合い協同的に取り組む児童が多い。高学年では挑戦する方法も自分で選び、選択することもできる。 ②児童アンケート 肯定群97%→98% 登下校時に挨拶を大きい声ですることができている。相手をみて挨拶をしよう意識しているため児童も多い。 ③児童アンケート 肯定群83%→87% ④教職員アンケート 肯定群100% 地域の方にご協力頂き、夢を表現する機会もあった。	
	よりよい生活習慣	①児童アンケート(7月・12月)「ノーマedia週間では、計画を立ててメディアコントロールに取り組んでいる」 ②保護者アンケート(7月・12月)「家庭では、テレビ・ゲームの時間に配慮している」 ③教職員アンケート(7月・12月)メディアコントロール週間の取組状況について	④ 80%以上 ③ 60%以上 ② 40%以上 ① 40%未満	3	①児童アンケート 肯定群88%→81% 生活習慣カードの取り組みを利用し、メディアの使用時間や就寝時間の目標を決めて取り組むことができています。家庭での決まり作りは徹底が難しいとの課題が長期休み実施のPTA保健委員会の取り組みで分かっている。 ②保護者アンケート 肯定群60.8%→60.8% ③教職員アンケート 肯定群90%→89% 機会を捉えて保護者向けにメディアコントロールについての資料を配付したり、親子教室でメディアとの関わりについて外部講師による講座を受講して、啓発活動を行っている。	
開かれた学校の推進	情報公開	①保護者アンケート(7月・12月)「各種よりなど子どもの様子をよく伝えている」 ②教職員(7月・12月)「運営協議会で検討された方向性や意見を活かして教育活動に取り組んでいる」	④ 80%以上 ③ 60%以上 ② 40%以上 ① 40%未満	4	①保護者アンケート 肯定群100%→98% 学年だよりの発行数に差があるので、子どもの様子を伝える方法を工夫する。 ②教職員アンケート 肯定群100%→100% 運営協議会やPTAと相談しながら、年間行事予定の見直しを行っている。	A 今年もコロナ禍でも工夫して行っている。 コミュニティ・スクールの研修会ができて、スローガンが決まった。今後の取組を充実させたい。
	「SDGs・郷育」の充実	①児童アンケート(7月・12月)「総合的な学習の時間で、地域や社会をよくするためにどうしたらいいかを考えている」 ②教職員アンケート(7月・12月)	④ 80%以上 ③ 60%以上 ② 40%以上 ① 40%未満	4	①児童アンケート 肯定群83%→88% 自ら課題を立てて取り組む探究活動になるように今後の取り組みを充実させる。 ②教職員アンケート 肯定群90%→100% 今後は教育課程を整理し、地域と連携して取り組めるように改善する。	
組織的対応 連携・協働	こ小中・地域連携・交流	①児童アンケート(7月・12月)「他学年とよく交流(異年齢遊び、縦割り清掃、河内っこ集会等)している」 ②教職員アンケート(7月・12月)「特活や生活・総合の時間で、系統性や連続性のある活動に取り組んでいる」	④ 80%以上 ③ 60%以上 ② 40%以上 ① 40%未満	4	①児童アンケート 肯定群87%→96% これまでも取り組んできたが、新しい取り組みも始まっている。 ②教職員アンケート 肯定群80%→78% 2学期はコロナの影響で予定を変更することもあった。	A 落合中学校区の連携や取組が進んでいる。働き方改革では、働きがいのある職場になるように取組を工夫する。
	効率的な学校運営 働き方改革	①教職員の時間外勤務時間 ②教職員アンケート(7月・12月)「業務の効率化や平準化に取り組む、働き方改革を意識している」	④ 80%以上 ③ 60%以上 ② 40%以上 ① 40%未満	4	①2学期から、最終退庁時刻と定時退庁日を設定して取り組んでいる。 ②教職員アンケート 肯定群80%→100% 行事や会議等を見直し、スリム化を図りながら効果的な取り組みを検討する。	

学校関係者評価総合所見 日頃の子供たちの様子やアンケート結果から、子供たちが良い状態で学習や生活をしていることが分かる。今年度から学校運営協議会が始まったので、コミュニティ・スクールとの一体的な推進を目指して、できることを増やしていく。子供たち同士のつながりとともに、家庭と地域もしっかり学校とつながって、子供たちの成長をサポートしていきたい。

学校関係者評価を受けての対応 保護者・地域の方々、河内小学校の子供たちを大事に思い、地域の宝だと思ってくださっている。引き続き、連携しながら、保護者・地域の方々により積極的・主体的に学校作りに参加することのできる体制を整備し、社会に開かれた教育課程の充実を図ってきたい。